

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第3回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成22年7月21日（水）午後7時15分～9時10分
開 催 場 所	ボランティアセンター会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：（座長）渡辺龍也、（副座長）高木寛之 （委員）飯塚十日子、鴻田臣代、小西喜芳、塩田和行、藤本信子、佐々木久子、木村祐子、伊藤輝男、藤崎由美子 欠席者：（副座長）杉澤幹生、（委員）安島敏市、中島秀雄 事務局：地域振興課長、地域振興課主査、地域振興課主事、ボランティアセンター長
報 告 事 項	(1) 平成22年度第2回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について (2) その他
議 題	(1) 市民と行政の意識改革の推進等について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	(1) 武蔵村山NPOネットワークによる「市民版タウンミーティング」について具体的な時期等について決定し、実行する。 (2) 9月以降の会議日程は、調整のうえあらためて通知する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局	報告事項 (1) 第2回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について ● 7月28日（水）までに修正等の連絡をする。 (2) その他 ● 「武蔵村山NPOネットワーク」の活動について 議題 (1) 市民と行政の意識改革の推進等について ● 次第について説明。 □ NPOネットワーク会議で話し合われたことについて、NPOネットワーク委員から報告願いたい。 ○ タウンミーティングの目的や、具体的な実施案について話し合った。具体案については主に「市民ニーズの発掘」と「事業者と市民ニーズのコーディネート」に分けての実施予定である。 □ 市民ニーズのコーディネートについては、ボランティアセンターに情報を集約し、説明することになるのか。 ○ 事業化の話まですることは無理があるかと思われる。 ○ どういったサービスがあるのかを知ってもらい、問題に対してどのように解決をしていくべきなのかを考えていく必要がある。 □ コーディネートに関しては市民協働提案制度のたたき台として進めていくべきであると思われる。 ○ モーニングミーティングについては月一回朝食を食べながら市の課題について話し合っている。 ○ まずはNPOネットワークがその中に参加できればと考えている。そこでいろいろな話を聞いて活動をすることで、市民の協働に対する意識が変わってくるのではないかと思われる。 ○ タウンミーティングは協働提案制度のたたき台としてやるのか。それでは時間がかかってしまうのでは。

- 大切なのは持続性であり、そのためには市民の方に魅力的でなくてはならない。
- タウンミーティングの実施スケジュールはどのようにするのか。
- 市民ニーズの発掘については来年の3月頃まで行い、事業者と市民ニーズのコーディネートについてはそのあとになると思われる。また、3種類のタウンミーティングについてはそれぞれを断続的に並行して行う必要がある。
- 来月から月一回、NPOネットワークとしてタウンミーティングに参加しようと考えている。
- NPOネットワークに所属していない市民協働推進会議委員は、どのように関わればいいのか。
- 会議の中ではNPOネットワークに可能な範囲の活動として話合った。
- できる事なら委員全員が関われる体制がいいのでは。
- 事業者と市民ニーズのコーディネートに関しては、タウンミーティングというよりはワークショップになるのではないかと。名称についても議論をしていただきたい。
- ワークショップという名前だと市民に疎遠感を与えてしまうのではないかと。
- 例えば“まちかどコミュニケーションミーティング”といったような親しみやすい名前がいいのではないかと。
- ボランティアセンターとの共催についてはどうするか
- 9月頃にボランティアセンターにてボランティア団体によるミーティングを行っている。その中でNPOネットワークに同席していただき、話をしていただければと思われる。
- 質問等の窓口をボランティアセンターに置くのがよいと思われる。
- ボランティアセンターからの通知を使って市民協働の活動を広報することも検討したい。
- 老人福祉会館における市民ニーズの発掘についてもそうだが、人が集まる所に話を聞きに行くというスタイルも市民ニーズを集める上で効果的な方法ではないかと。
- 今の段階でターゲットを絞り、実践に向け具体化を進めていくべきではないかと。
- 情報収集の後に、提案制度とのマッチングの二段階の活動になると考えられる。そこでより具体的な活動について決定していきたい。
- 市民協働提案制度は二本立てになっている。それに合わせて会議としての活動も二本立てにする必要があると思われる。
一つは9月のボランティアセンターミーティングにおいて協働制度についてアナウンスをし、2～3回で団体向けのシミュレーションなどを行い、詳しい話をしていく。もう一つはタウンミーティングを行い、できれば組織化をしていく。タウンミーティングチームに関しては月1回は厳しいと思われるので、2か月に1回程度になるとと思われる。モーニングミーティングに関しては持続性が問題になるため、NPOネットワークが関わるのは1回ぐらいになるとと思われる。
また保育つきお茶のみ会や老人福祉施設訪問に関しても、メンバーの固定化が起こる恐れがあるので、来ることによるメリットと抱き合わせにし、うまく人を集める必要があると考えられる。その中

	<p>で自治会及びボランティアセンターによりネットワークを広げていく必要がある。また、別の問題として学童世代の親をカバーしきれていないという点がある。そこでどのように地域及び対象を設定していくのかを考える必要がある。</p> <p>○ 自治会が関わっていく話になっていく中で、自治会活性化補助金との区別はどのようになされるのか。</p> <p>□ 提案制度は2つ以上の自治会を対象としている。自治会主体となるのではなく、情報の広報手段の一端としての関わり方もあると思われる。その中で自治会の中でのみ解決したい問題もあるのではないか。</p> <p>○ 様々な活動に関する日付等を決定し、協働のネットワークを早めに広げていく必要があるのではないか。</p> <p>□ NPOネットワークを中心に8月から具体的な活動について相談し、決定していただきたい。</p> <p>● 市民協働提案制度リーフレットについて、制度はまだこれから実施する段階なので、想定される概要について説明するためのリーフレットになると考えられる。</p> <p>(2) その他</p> <p>● 次第4ページに基づき説明。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 []	傍聴者： 0 人
-------------	---	----------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	市民生活部 地域振興課 (内線： 224)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)